

## 【グループ研修の報告】

今回の研修会は、現場において支援の中心的な役割を担っている職員に集まっていただき、1つのケースを題材にグループワークを行いました。十分にコロナ対策を行い、人数も制限し、1回30人での研修を2日設けました。

圏域が近い方々が集まれるように設定をし、支援のあり方について学ぶだけではなく、他事業所とのネットワークづくりの機会になればと思い、開催しました。

京都市子ども家庭支援課障害児支援係長の森田考紀氏のあいさつの後、放課後等デイサービス『そらいろチルドレン』の代表をされている坂口聡氏に、研修会を進めていただきました。

コロナ禍で「学びを止めるな」と言われていますが、大人にも問われている事ではないか。今日のグループ研修は貴重な機会であり、「自分はなぜ、この仕事に選んだのか」といった原点に立ち返れるような日にもなればという思いを、初めに語られました。

初めは、グループ内での自己紹介です。画用紙に事業所、名前、お気に入りの休日の過ごし方、今の事業所の状態を天気で表すなど、4項目を書き込みました。5人グループで、おひとりずつ画用紙を見せながらの自己紹介は、緊張している気持ちが和んだ時間です。

次に「知る活動」で、坂口氏よりそらいろチルドレンの紹介をしていただきました。チームの目的、個人の目的、事業所の役割やつながり、どんな思いで事業所名をつけたか、大切にしている3つの問いなど、じっくりお話しいただきました。

グループワークの最初は、グループを今日だけの1つの事業所と仮定して、事業所の名前を考えました。いろんな思いや意味を込めた、個性豊かな事業所名を、それぞれつけておられました。

そして、課題ケースを読み、いよいよメインのグループワーク、「創る活動」です。「そらいろころさん」という、架空の小学4年生の女の子を中心に、お母さんの思い、お兄さんとの関係、ころさんの好きなことや興味があること、課題について思いを巡らし、それぞれ具体的な活動を考え、話し合いました。何を大切に考えたか、こうなってほしいという希望、ころさんを中心に地域や学校との連携を考えたり、利用できる公的支援はないかを考えたり、今できることや近い未来も視野に入れながら、提案されていました。架空ではありますが、ころさんの居場所をみんなで創ることができたのでは、と感じました。

最後に坂口氏は、次のようにまとめられました。  
今日のグループワークでの内容をどう支援に生かしていくかは、みなさん次第です。  
自分に今、何ができるだろう、目の前のこどもたち・ご家族・同僚は何を大切にしているのだろう、このチームの目的はなんだろう、時に心を傾けてみてください。  
また、どこかでお会いできたら、こどもたちの話をしましょう。ひとつひとつの取り組みの話をしましょう。こどもたちと関わる時に、おひとりおひとりが大切にしていることの、話をしましょう。  
「あってよかった」と思ってもらえる居場所を、「出会えてよかった」と思ってもらえる関係を、こどもたちが「生まれてよかった」と思える世界を、みんなで作っていきましょう。  
今日はみなさんと共に、素敵な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。